

## 中国地域の経済動向

(2026年4月の指標を中心に)

～緩やかな持ち直しの動きがみられる～

2026年6月19日

(本発表資料のお問合せ先)  
総務企画部企画調査課長 中野 伸二  
電話：082-224-5633  
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

## ～判断の推移～

2026年5月（3月指標中心）

2026年6月（4月指標中心）

基調判断	2026年5月（3月指標中心）	2026年6月（4月指標中心）
	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
1. 生産動向	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
2. 個人消費	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で減少
4. 景況感	現状、先行きともに前月に比べ低下	現状、先行きともに前月に比べ上昇
5. 貿易	輸出は前年同月比で増加、輸入は減少	輸出、輸入ともに前年同月比で増加
6. 建設動向	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で増加	⇒
8. 設備投資	2026年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

# 1. 生産動向 ～緩やかな持ち直しの動きがみられる～

2026年4月の鉱工業生産指数（速報）は102.1、前月比2.5%の上昇となった（2020年=100、季節調整済）。出荷は上昇、在庫は上昇、在庫率は低下となった。

生産を業種別に見ると、食料品・たばこ工業、その他の工業、生産用機械工業などが上昇し、化学工業（除、医薬品）、非鉄金属工業、自動車（乗用車・トラック・主要部品）などが低下した。

## 【主要業種の動向】

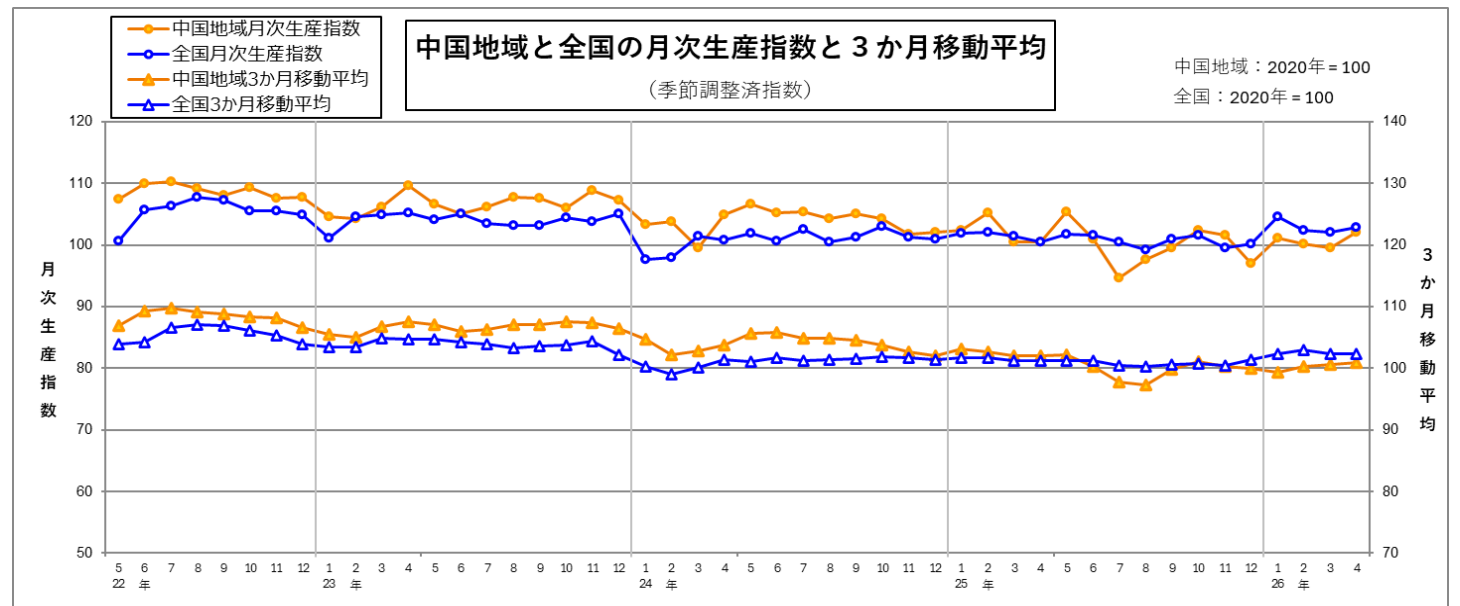
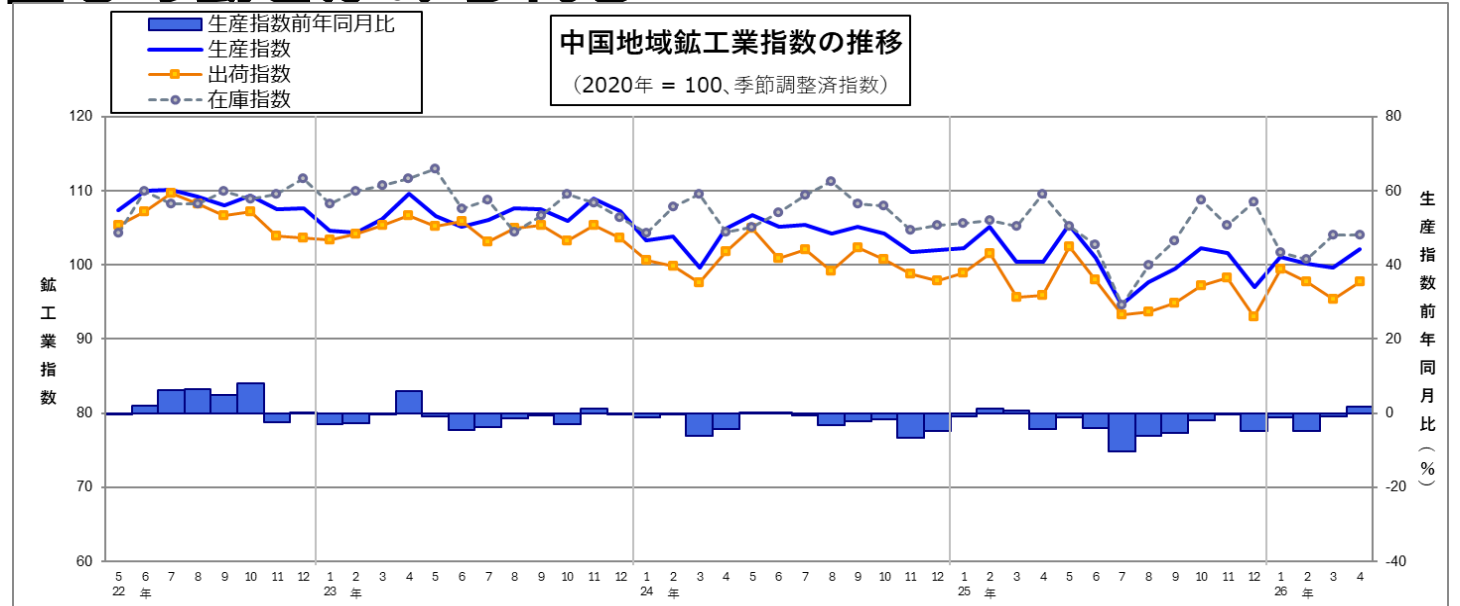
自動車（乗用車・トラック・主要部品）はモデルチェンジした車種のうち一部の生産が落ち着いたが依然として堅調に推移。

生産用機械工業は引き続き旺盛なAI需要を背景に需要や輸出の増加により高い水準で推移。

化学工業（除、医薬品）は弱含みで推移。

当月中東情勢により影響が出ているものの、先行きは原材料の確保が進むなど改善の兆しがみられる。

詳細データはこちらから



## 2. 個人消費 ～緩やかな持ち直しの動きがみられる～

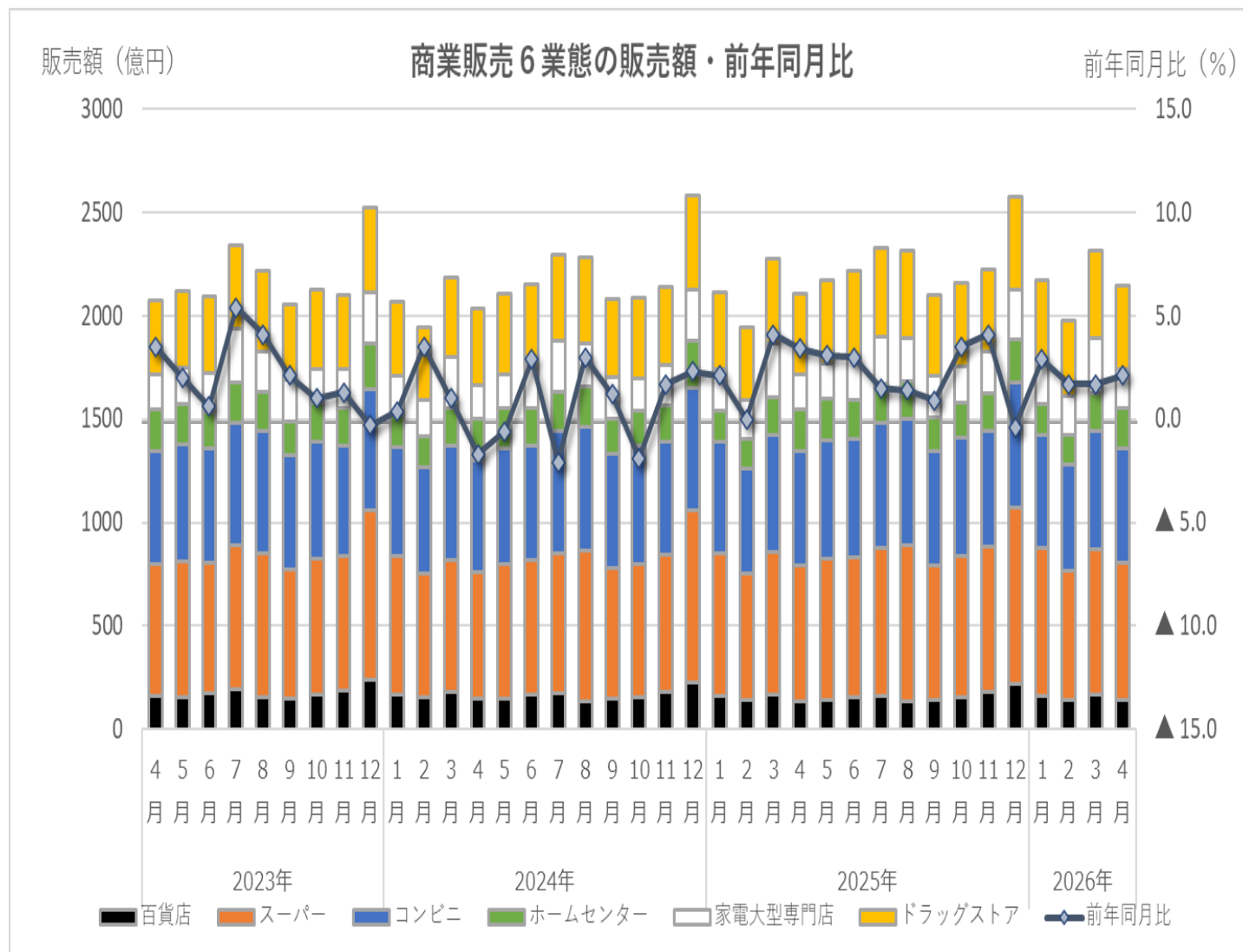
2026年4月の商業6業態の販売額は2,148億円で、前年同月比2.1%と4か月連続で前年を上回った。

(百万円) (全店舗、%)

	6業態における構成比	販売額	前年同月比	前月の前年同月比
6業態		214,803	2.1 4か月連続プラス	1.7
百貨店	6.6%	14,092	2.5 5か月ぶりにプラス	▲ 0.4
スーパー	30.8%	66,243	0.8 18か月連続プラス	1.8
コンビニエンスストア	25.7%	55,182	▲ 0.1 7か月ぶりにマイナス	1.5
ホームセンター	9.2%	19,713	▲ 1.9 2か月ぶりにマイナス	0.3
家電大型専門店	8.8%	18,871	14.2 4か月連続プラス	2.9
ドラッグストア	18.9%	40,703	4.0 4か月連続プラス	2.6

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	341	1.5 %
コンビニエンスストア	3,056	0.3 %
ホームセンター	401	▲ 0.7 %
家電大型専門店	177	0.6 %
ドラッグストア	1,070	1.2 %

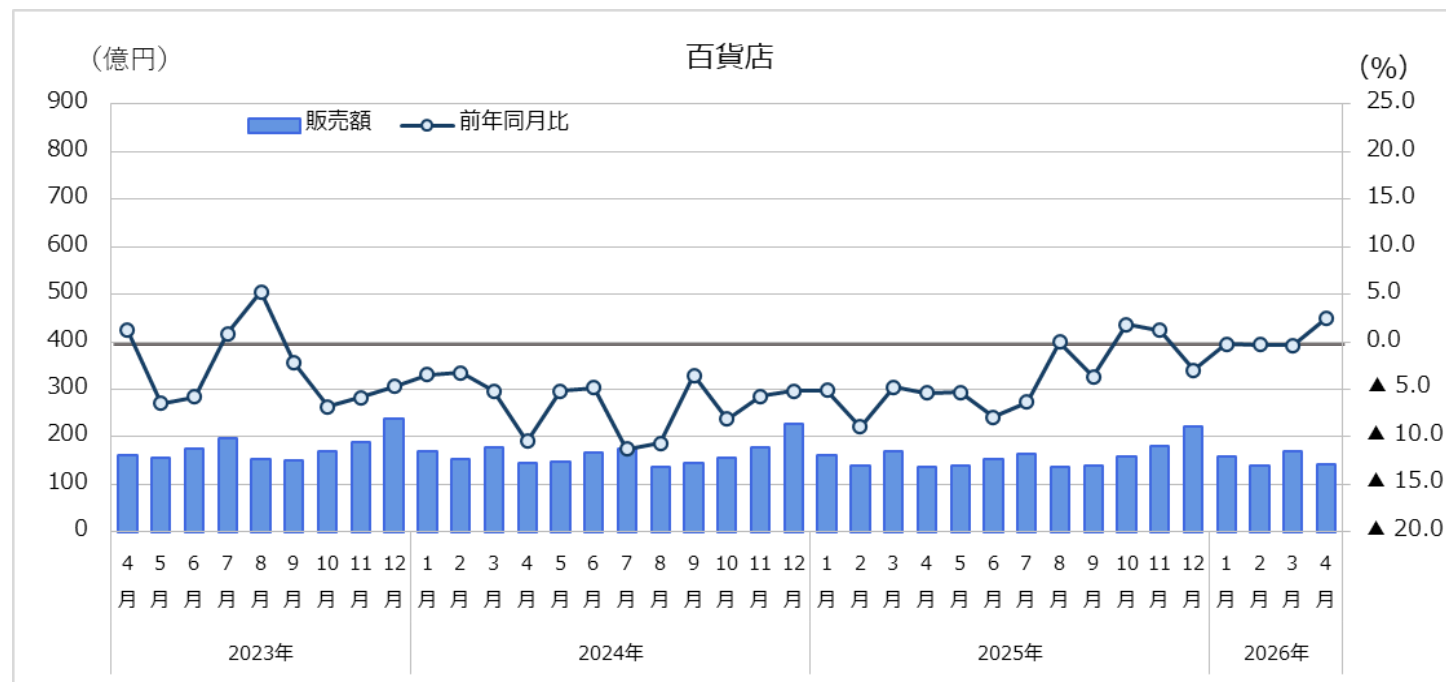
その他のデータはこちらから



## 2. 個人消費

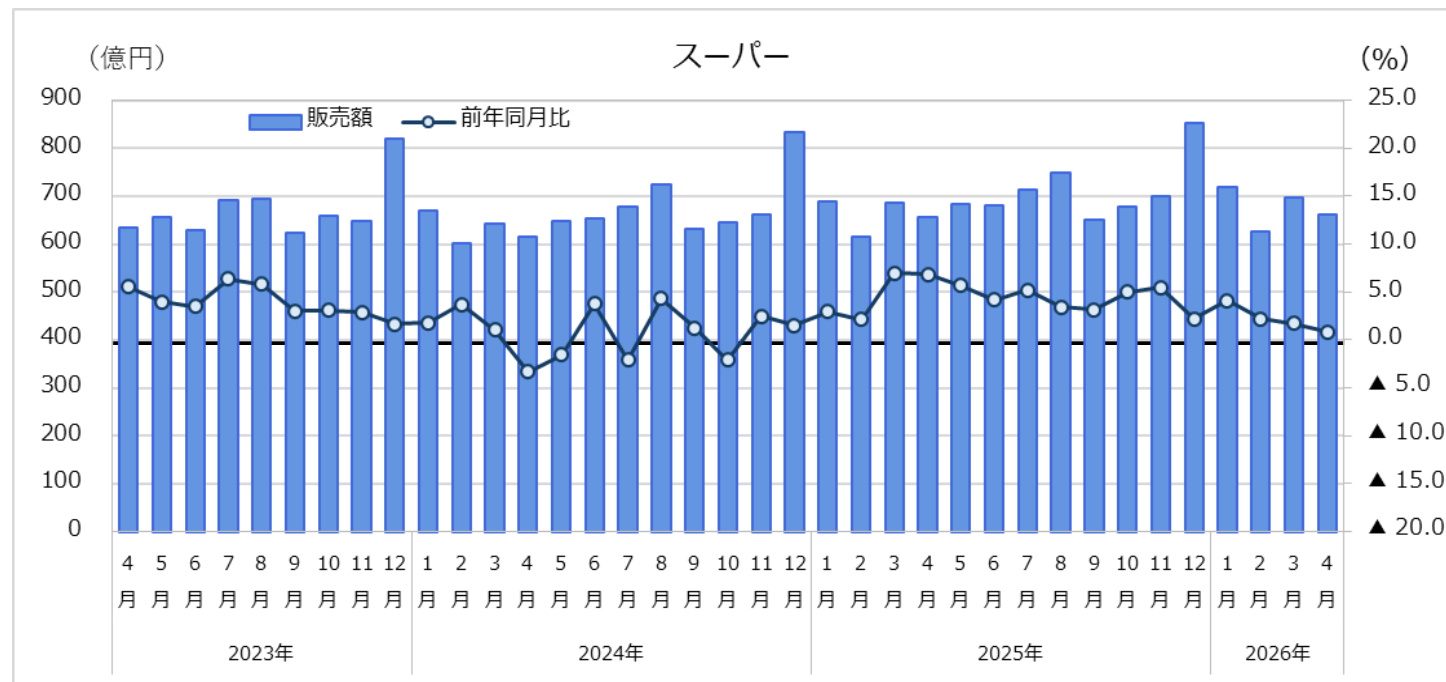
### (1)百貨店の状況

株高などにより高額品需要が強く、ラグジュアリーブランドの靴やバッグといった身の回り品や、時計や宝飾品が好調だった。一方で、気温高により春物などの衣料品の動きが鈍かった。飲食料品は物産展などの催事が好調だったものの、節約志向により総菜が低調だった。



### (2)スーパーの状況

気温上昇に伴いカットパイনやキウイなど輸入果実品が好調だったほか、時短志向の高まりにより調味済みの精肉も好調だった。また、自転車の法改正にくわえ雨の日が多かった影響でレインコートが好調だった。一方で、紳士・婦人衣料ともに動きが鈍かった。



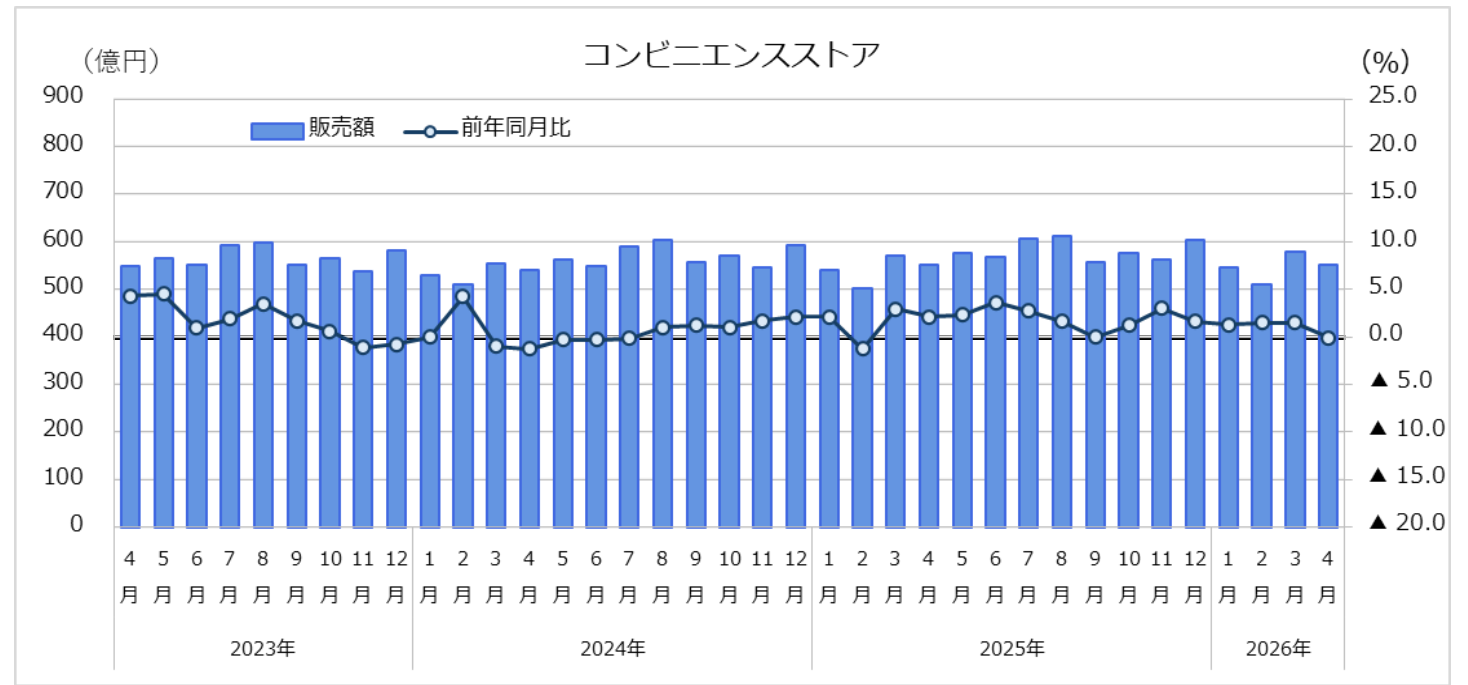
詳細データはこちらから



## 2. 個人消費

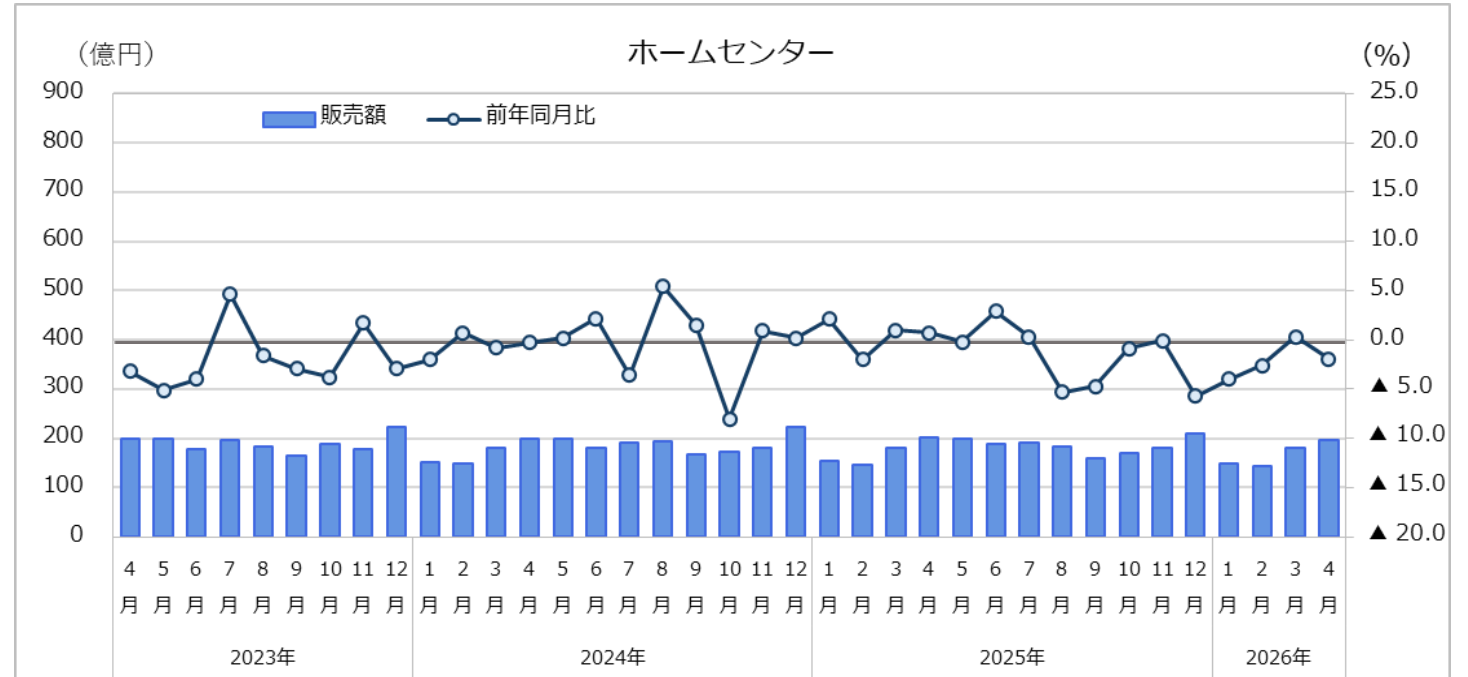
### (3) コンビニエンスストアの状況

セット割引やクーポン施策といった販売促進施策により揚げ物や飲料が好調だった。一方で、たばこは4月からの値上げに伴う前月の駆け込み需要の反動で低調だったほか、スーパーとの価格差により即席麺も低調だった。



### (4) ホームセンターの状況

雨の日が多かった影響で野菜苗や堆肥類といった園芸用品が低調だった。気温高により灯油は低調だったものの殺虫剤や液体洗剤が好調だった。また、DIY用品や家庭用品・日用品に良い動きがみられた。

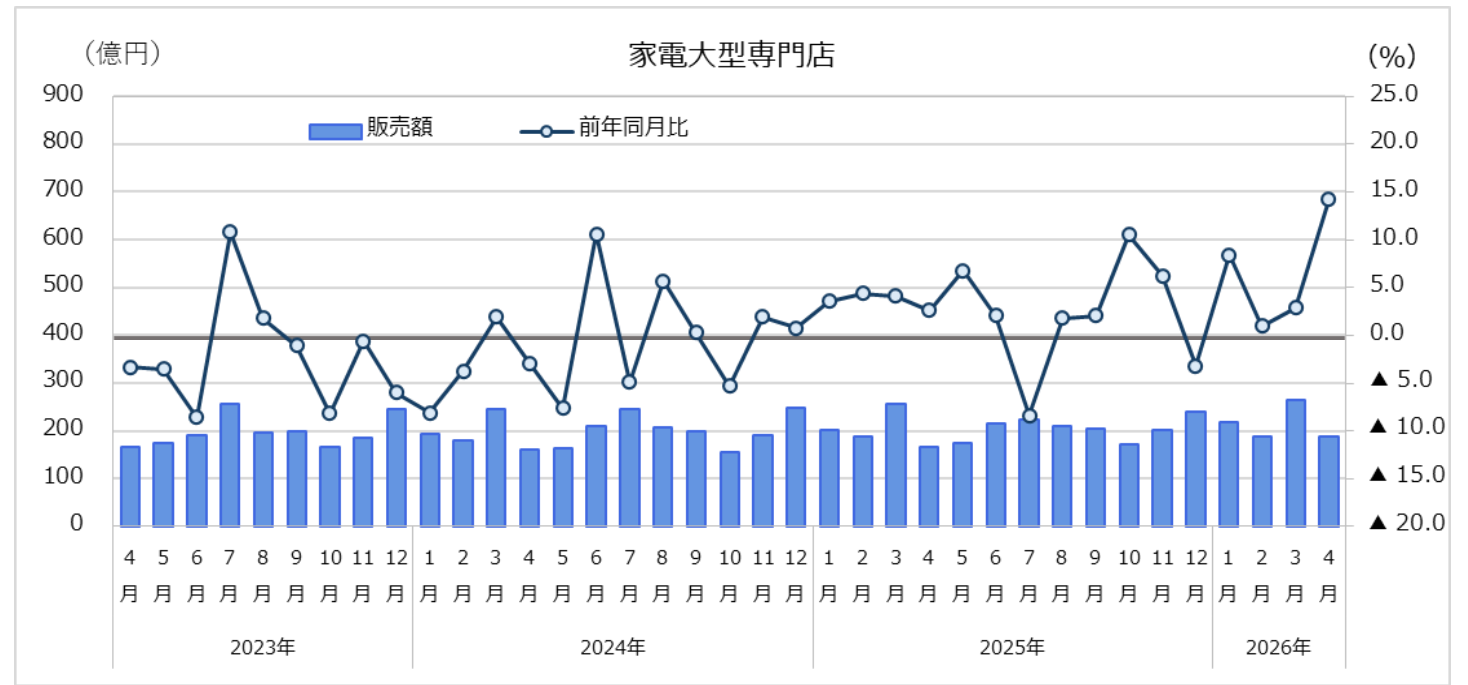


(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

## 2. 個人消費

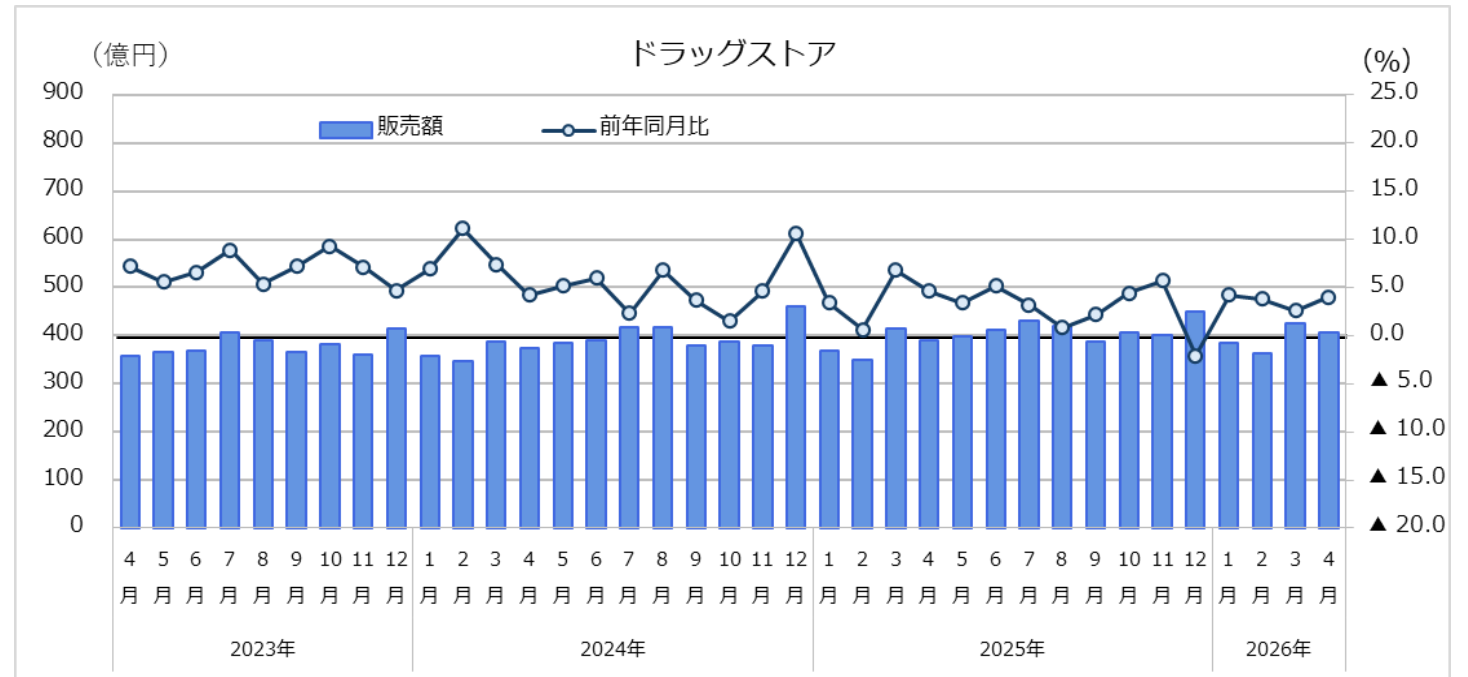
### (5)家電大型専門店の状況

エアコンは、価格高騰の懸念による駆け込み需要が継続しており好調だった。買い替え・買い増し需要により冷蔵庫やテレビ、調理家電が堅調に推移した。そのほか、販売促進効果により携帯電話が好調だった。



### (6)ドラッグストアの状況

前年落ち込んだ反動でビールなどの酒類が好調だったほか、トイレットペーパーといった日用消耗品が好調だった。また、気温高により殺虫剤や皮膚薬が好調だった。一方で、前年に比べ花粉飛散量が少なかったため、鼻炎治療薬やかゆみ目薬が低調だった。

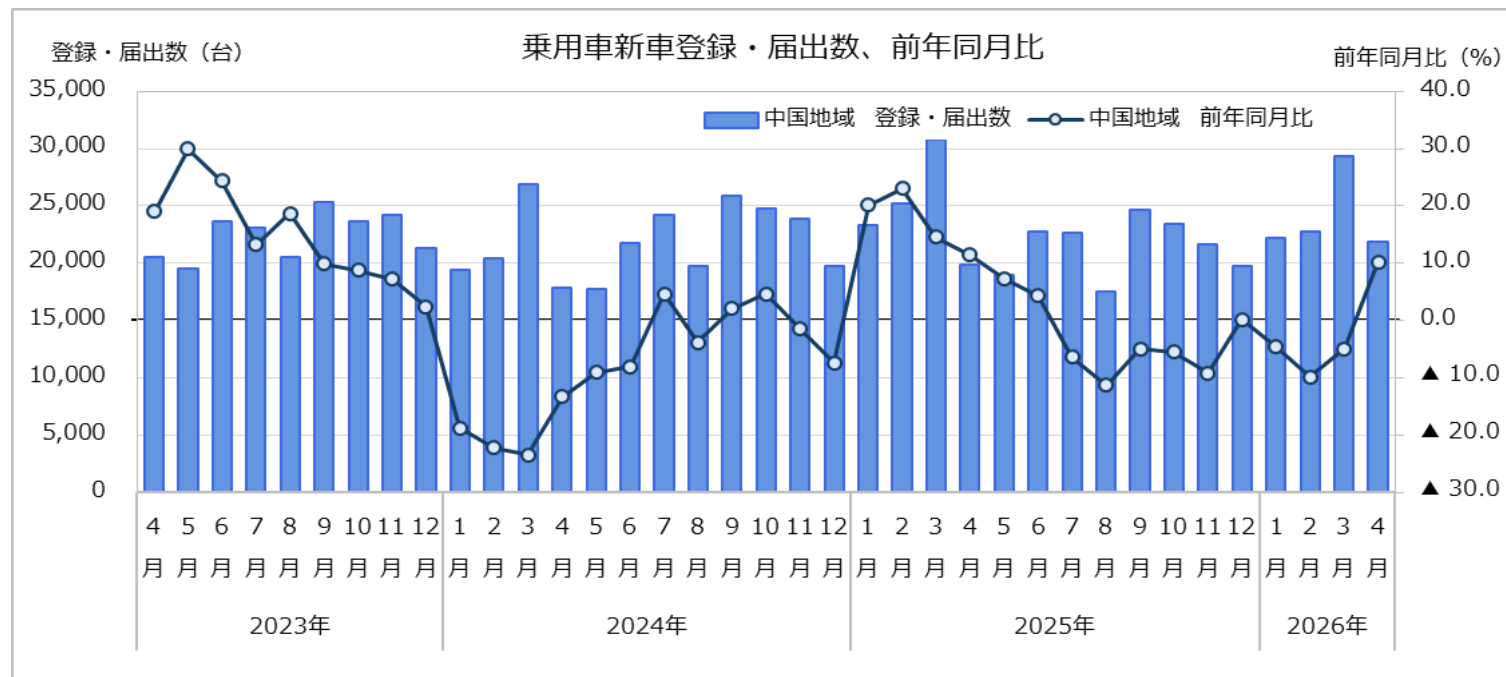


## 2. 個人消費

### ●乗用車新車登録・届出数

2026年4月の乗用車新車登録・届出数は、軽乗用車が前年同月を下回ったものの、普通乗用車、小型乗用車が前年同月を上回り、合計では前年同月比10.2%と4か月ぶりに前年を上回った。

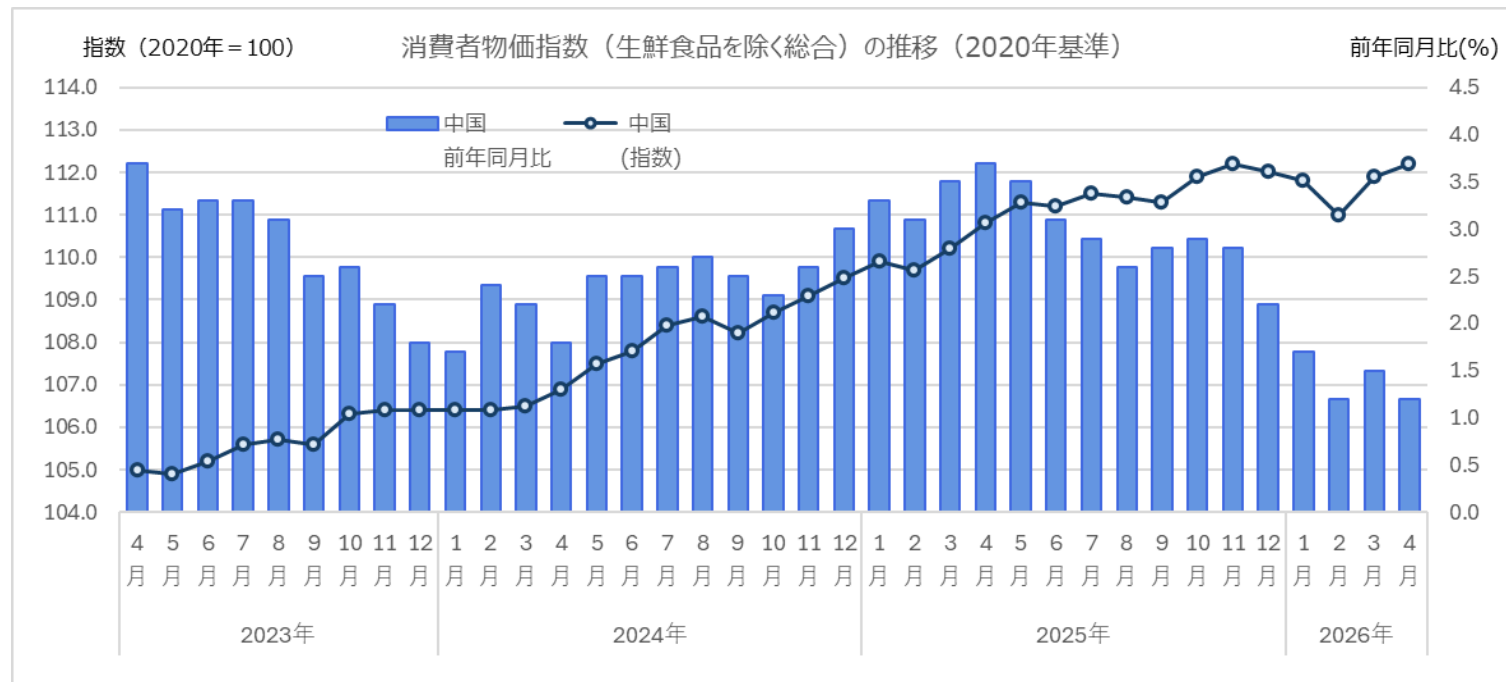
(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成



### ●消費者物価指数 (中国地域)

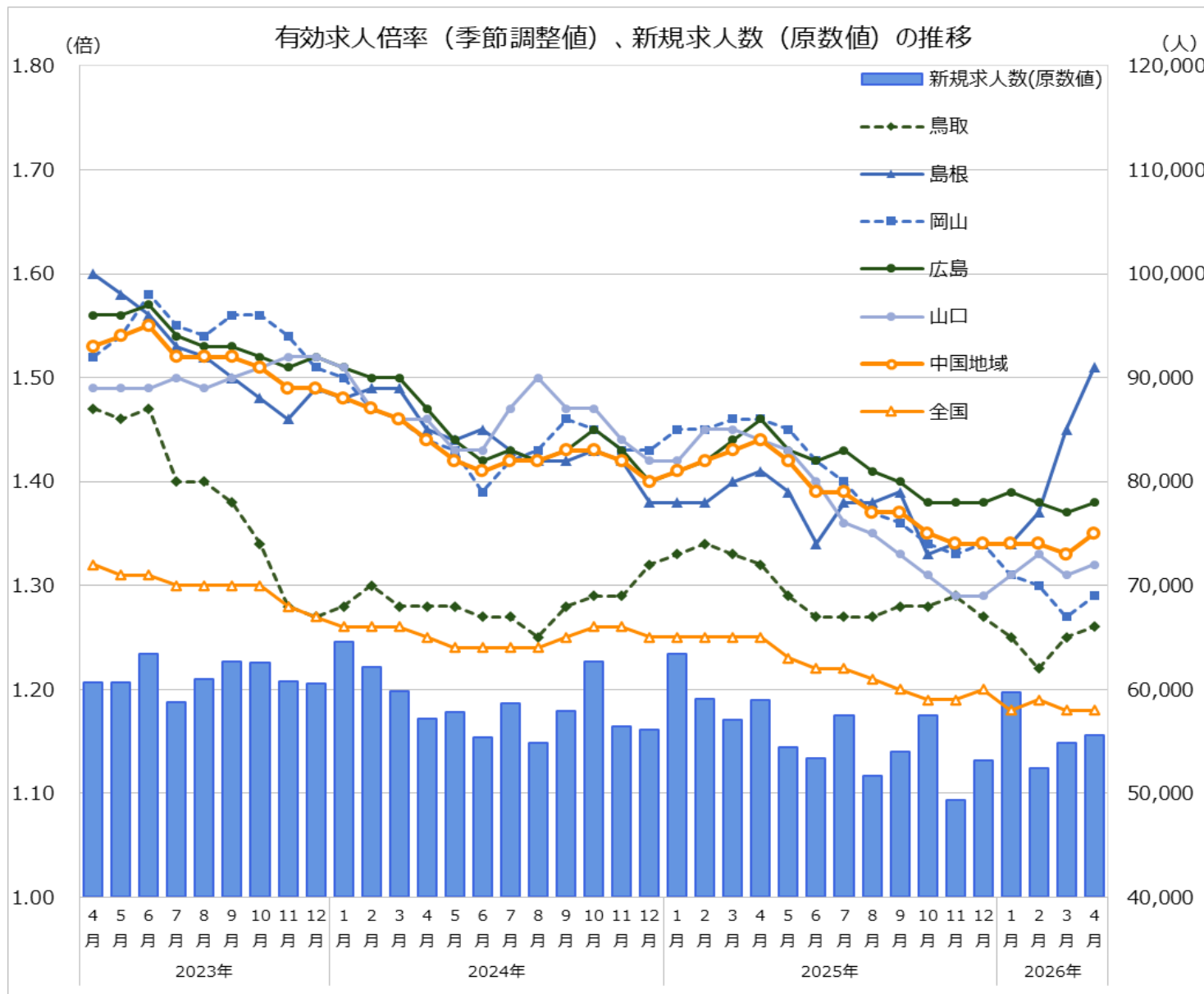
2026年4月の消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合指数) は前年同月比1.2%の上昇となった。

(資料) 「消費者物価指数」 (総務省)



### 3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で減少～

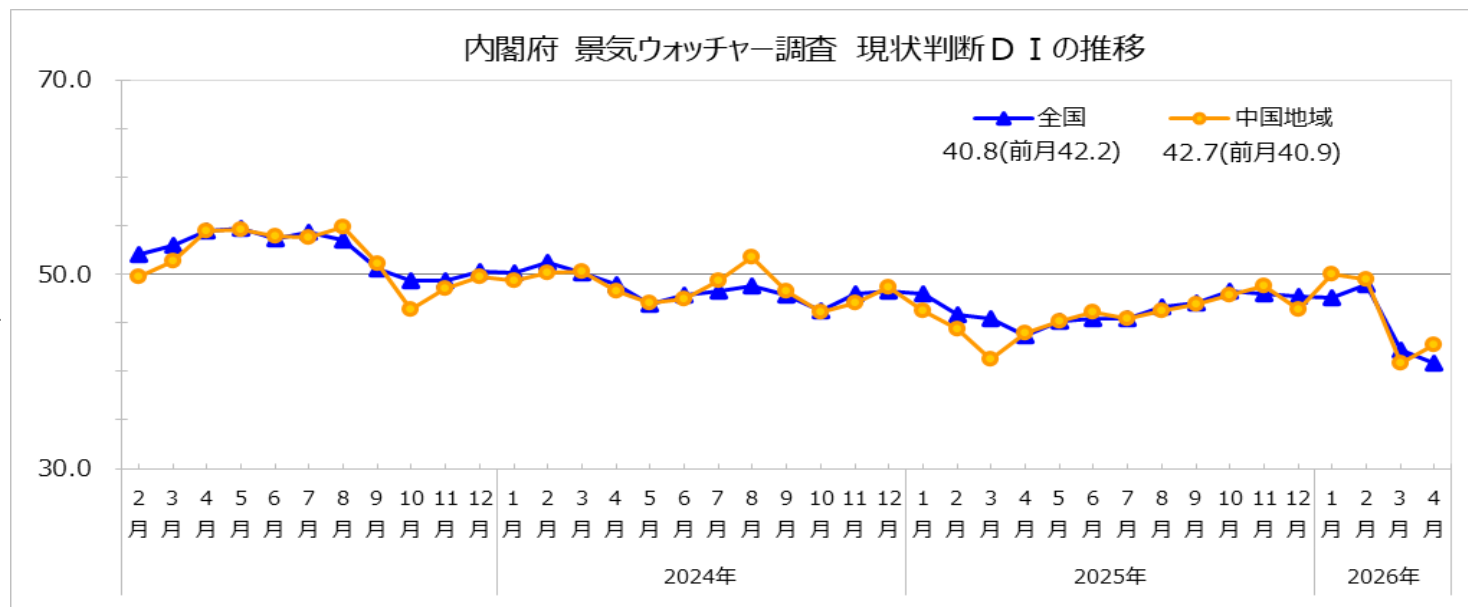
2026年4月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.35倍で前月の値を0.02ポイント上回った。また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲5.8%で12か月連続の減少となった。



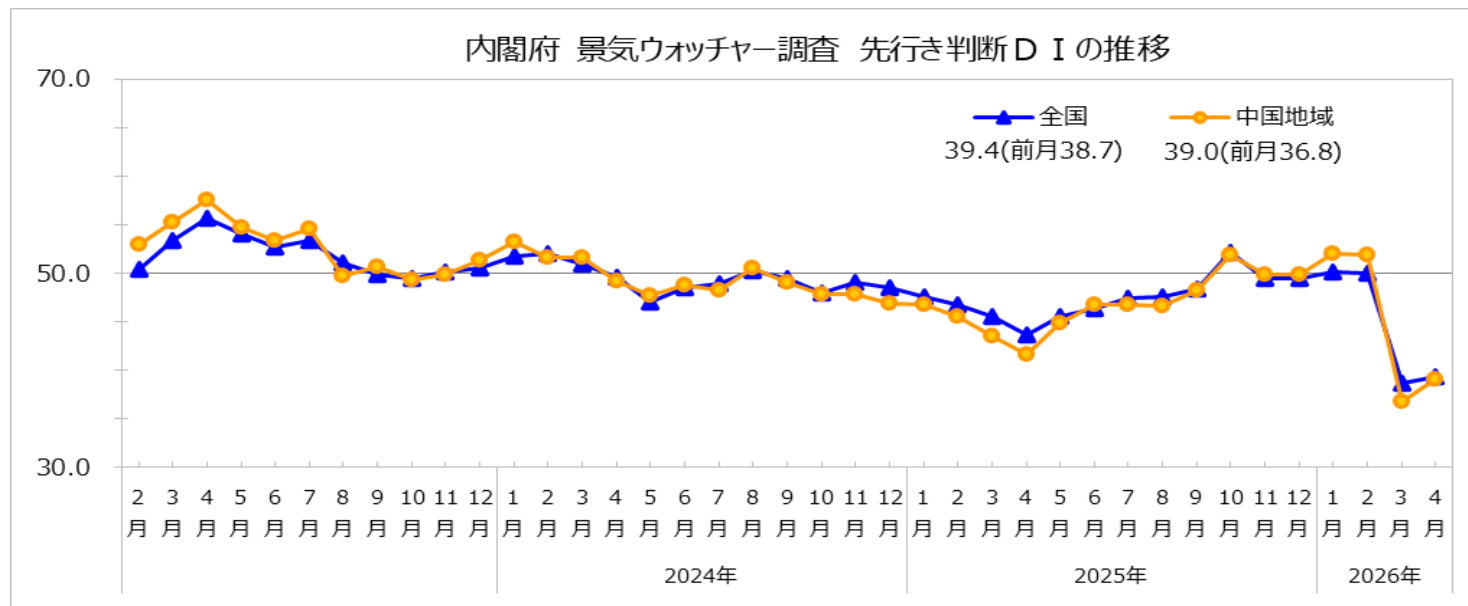
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

## 4. 景況感 ～現状、先行きともに前月に比べ上昇～

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和8年4月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は42.7となり、前月差1.8ポイントの上昇となった。



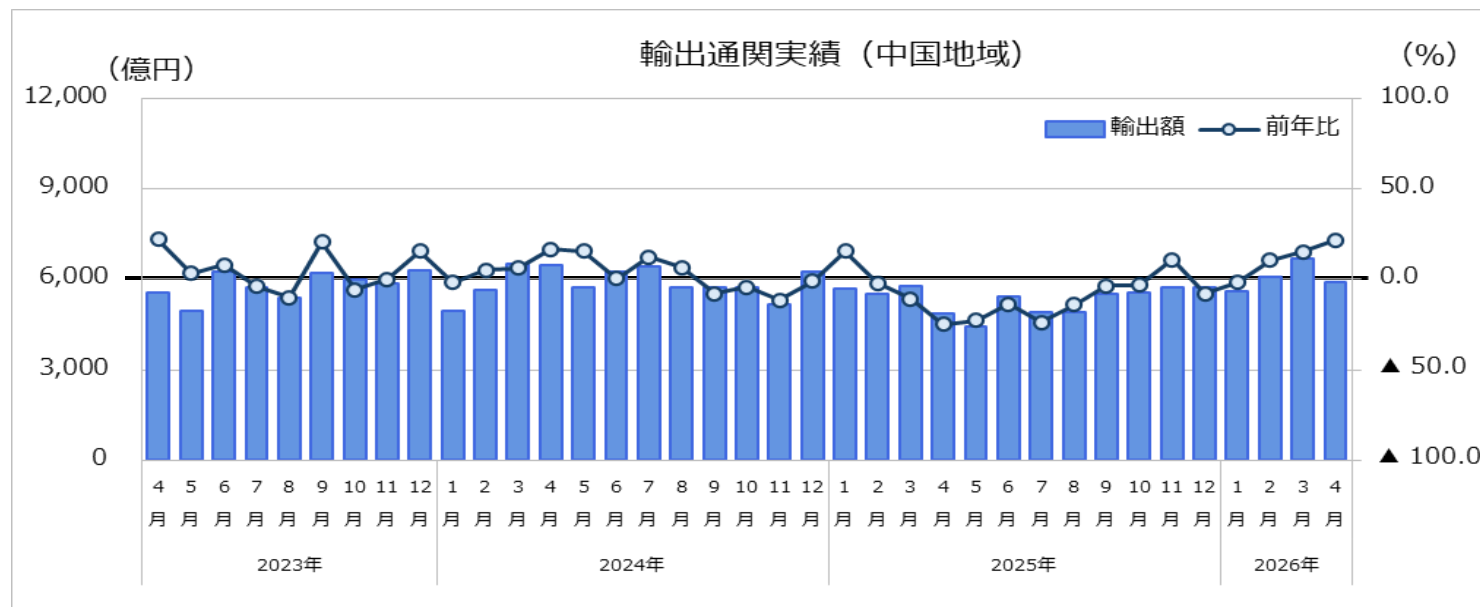
2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは39.0となり、同2.2ポイントの上昇となった。



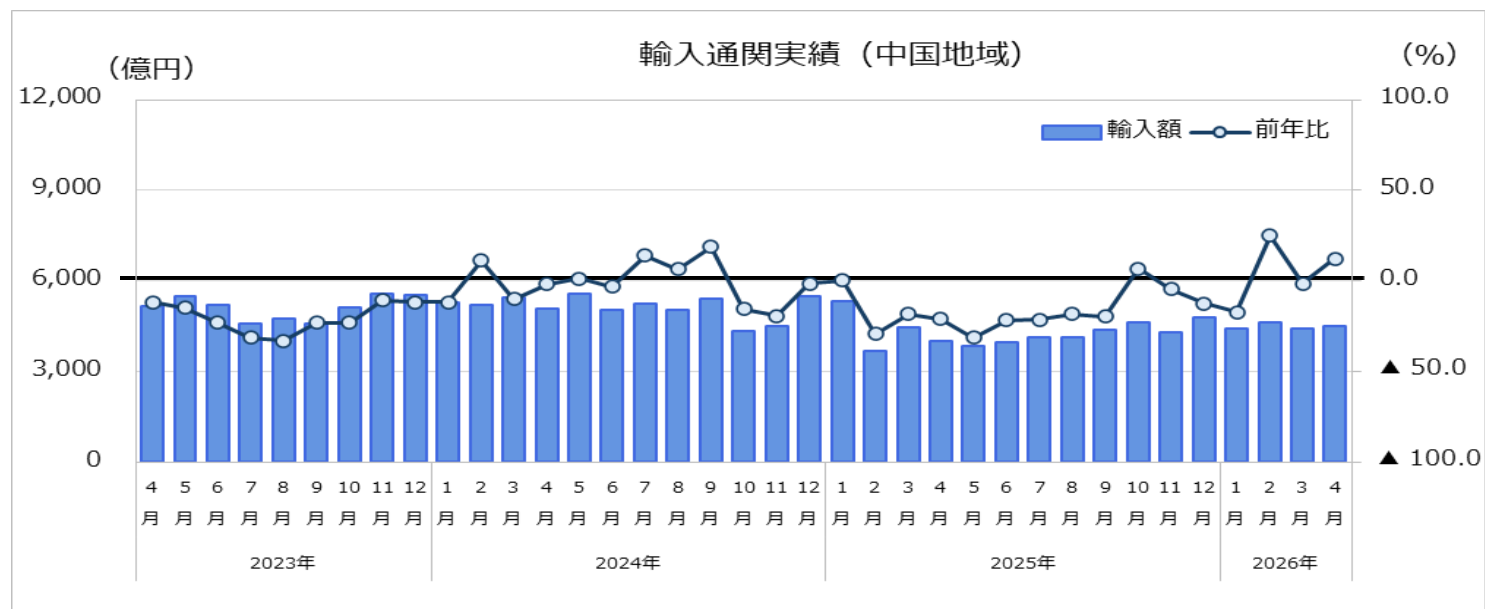
（資料）「景気ウォッチャー調査」（内閣府）

## 5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で増加～

2026年4月の輸出は、前年同月比21.5%と3か月連続で前年を上回った。品目別では、自動車、半導体等製造装置などが前年を上回った。地域別では、アジア、北米向けなどが前年を上回った。



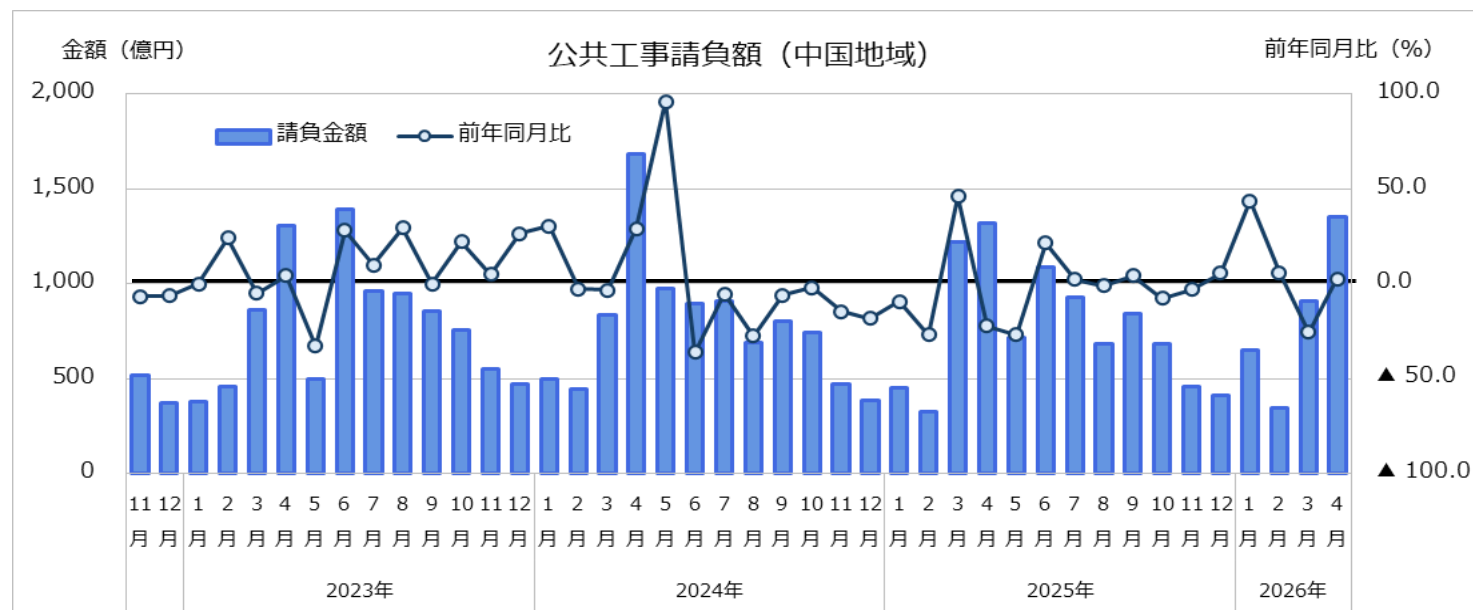
2026年4月の輸入は、前年同月比12.4%と2か月ぶりに前年を上回った。品目別では、金属鉱及びくず、石炭などが前年を上回った。



## 6. 建設動向 ～公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少～

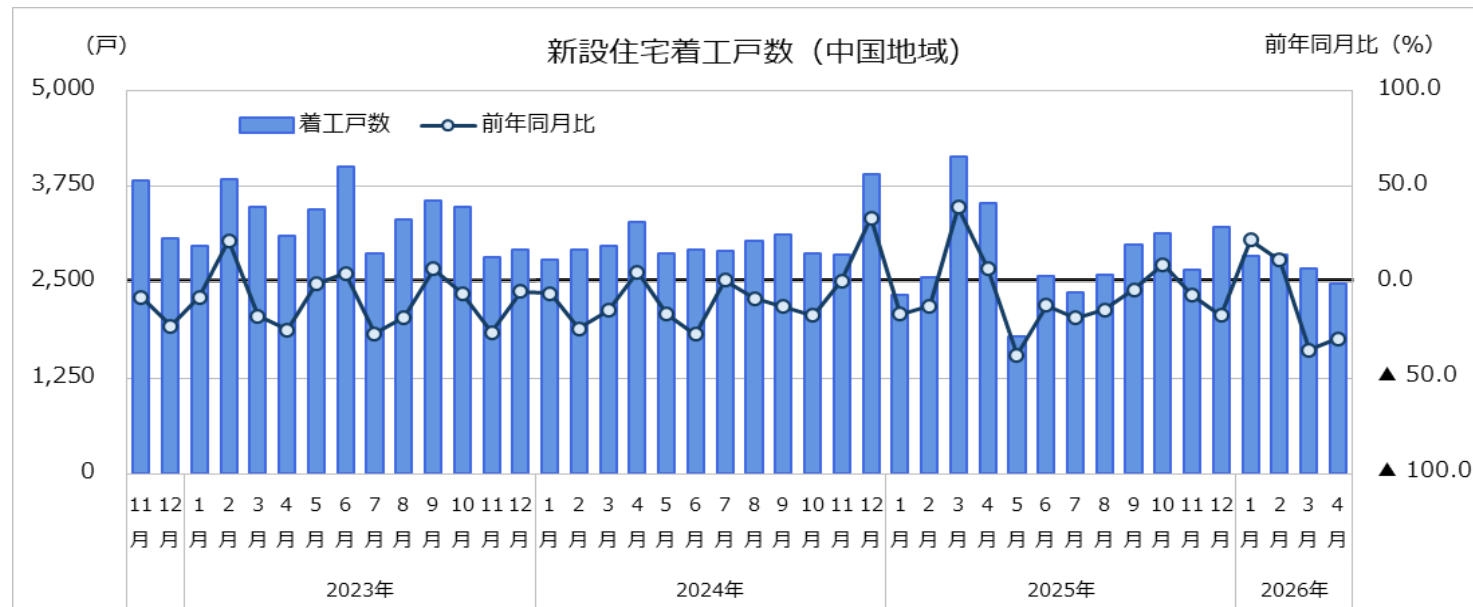
2026年4月の中国地域の公共工事請負金額は、国、独立行政法人等、その他公共的団体で前年を下回ったものの、県、市町村で前年を上回った。合計では前年同月比2.7%と2か月ぶりに前年を上回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店



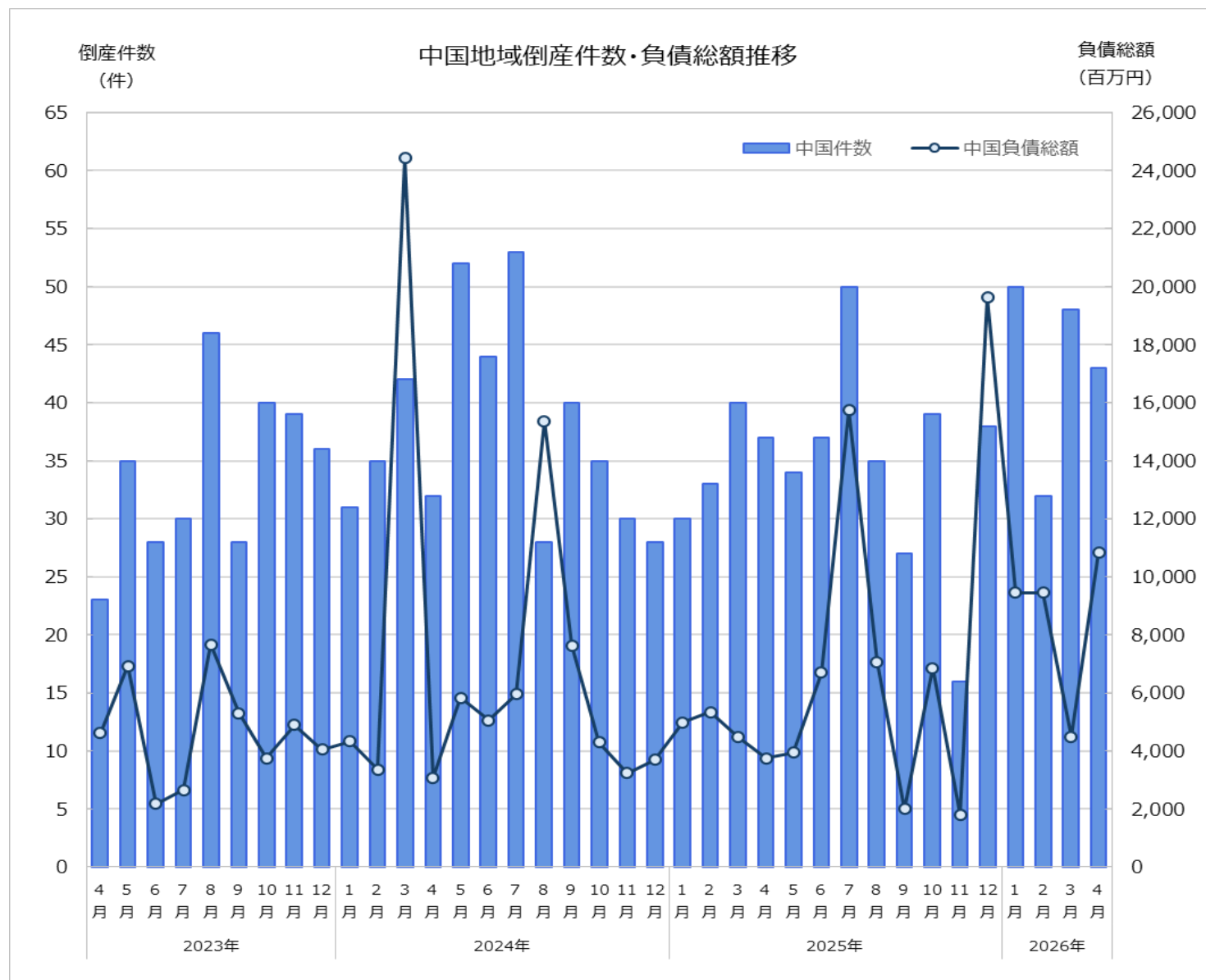
2026年4月の新設住宅着工戸数は、持家で前年を上回ったものの、貸家、給与住宅、分譲住宅で前年を下回った。合計では前年同月比▲29.5%と2か月連続で前年を下回った。

(資料) 「建築着工統計調査報告」 (国土交通省)



## 7. 企業倒産 ～件数、負債総額とも前年同月比で増加～

2026年4月の企業倒産件数は43件で、前年同月比16.21%と2か月連続で前年を上回った。また、負債総額は108億4,300万円で、前年同月比189.68%と5か月連続で前年を上回った。業種別にみると、サービス業他が13件、卸売業が8件、建設業が7件などとなった。原因別にみると、販売不振が35件、他社倒産余波が4件、既往のシワ寄せが2件などとなった。



## 8. 設備投資 ～2026年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2026年3月)によると、2026年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比8.2%、非製造業が同0.2%となり、全産業では同4.6%となっている

(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したものを。

